

教科	数学	科目名	数学Ⅱ			
対象学年と群	2・3年 A群	一般通信	必履修・選択必履修	選択	単位数	4
科目の目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。					
学習内容	(1) いろいろな式 整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。また、方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 (2) 図形と方程式 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 (3) 指数関数・対数関数 指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 (4) 三角関数 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 (5) 微分・積分の考え 微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。					
評価の観点及びその趣旨	関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。				
	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、考察の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。				
	数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。				
	知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。				
評価の方法	定期考査、その他随時行われる小テスト、学習状況（学習態度）、欠席の実態などにもとづき、総合的に評価する。					
学習方法	・教科書に従って授業を進める。 ・適宜、プリントを使用する。					
教科書・教材など	『新版数学Ⅱ 新訂版』（実教出版）					
授業形態	一斉授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	1章 方程式・式と証明 1節 式の計算 3次の乗法公式及び因数分解の公式を理解する。 それらを用いて式の展開や因数分解ができる。 整式の除法や分数式の四則計算について理解する。 簡単な場合について整式の除法や分数式の四則計算ができる。	42
	5	2節 複素数と方程式 数を複素数まで拡張する意義を理解する。 複素数の四則計算ができる。 二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解する。 簡単な高次方程式の解を因数定理などを用いて求めることができる。	36
	6	3節 式と証明 等式や不等式が成り立つことを、それらの基本的な性質や実数の性質などを用いて証明できる。 ――中間考査――	
		2章 図形と方程式 1節 点と直線 座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や二点間の距離を求めることができる。 座標平面上の直線を方程式で表し、それを二直線の位置関係などの考察に活用できる。	
	7	2節 円 座標平面上の円を方程式で表し、それを円と直線の位置関係などの考察に活用できる。 軌跡について理解する。	
	8	3節 軌跡と領域 簡単な場合について軌跡を求めることができる。 簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりできる。 ――期末考査――	
	9		
2 (後期)	10	3章 三角関数 1節 三角関数 角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解する。 三角関数とそのグラフの特徴について理解する。 三角関数について、相互関係などの基本的な性質を理解する。	20
		2節 加法定理 三角関数の加法定理を理解する。 加法定理を用いて2倍角の公式を導くことができる。	16
	11	4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数 指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解する。 指数関数とそのグラフの特徴について理解する。 それらを事象の考察に活用できる。	
		2節 対数関数 対数の意味とその基本的な性質について理解する。 簡単な対数の計算ができる。 対数関数とそのグラフの特徴について理解する。 それらを事象の考察に活用できる。	
	12	――中間考査――	34
		5章 微分・積分 1節 微分係数と導関数 微分係数や導関数の意味について理解する。 関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができる。	
	1	2節 微分法の応用 導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかくことができる。 微分の考えを事象の考察に活用できる。	
	2	3節 積分法 不定積分及び定積分の意味について理解する。 関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分を求めることができる。 定積分を用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求めることができる。	
	3	――期末考査―― まとめ・復習	
			8
		時間数合計	156
			(148)

教科	数学	科目名	数学 A					
対象学年と群	2・3 年	H 群	一般	通信	必修・選択必修	選択	単位数	2
科目の目標	場合の数と確率又は図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。							
学習内容	(1) 場合の数と確率 場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 (2) 図形の性質 平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 [課題学習] 上記 1・2 の内容又はそれらを相互に関連付けた内容を生活と関連付けたり発展させたりするなどして、生徒の関心や意欲を高める課題を設け、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識できるようにする。							
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。						
	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、考察の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。						
	数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。						
	知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。						
評価の方法	定期考査、その他随時行われる小テスト、学習状況（学習態度）、欠席の実態などにもとづき、総合的に評価する。							
学習方法	・教科書に従って授業を進める。 ・適宜、プリントを使用する。							
教科書・教材 など	『高校数学 A 新訂版』（実教出版）							
授業形態	一斉授業							

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	1章 場合の数と確率 1節 場合の数 集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則について理解する。	21
	5	具体的な事象の考察を通して順列及び組合せの意味について理解する。 それらの総数を求めることができる。 ――中間考査――	
	6	2節 確率 確率の意味や基本的な法則についての理解を深める。 それらを用いて事象の確率を求めることができる。	18
	7	確率を事象の考察に活用できる。 独立な試行の意味を理解する。 独立な試行の確率を求めることができる。	
	8	それを事象の考察に活用できる。 条件付き確率の意味を理解する。 簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。	
	9	それを事象の考察に活用できる ――期末考査――	
	10	(場合の数と確率 続き)	18
	11	――中間考査――	
	12	3章 図形の性質 1節 作図 基本的な図形の性質などをいろいろな図形の作図に活用できる。	17
2 (後期)	1	2節 三角形の性質 三角形に関する基本的な性質について、それらが成り立つことを証明できる。	
	2	3節 円の性質 円に関する基本的な性質について、それらが成り立つことを証明できる。	
	3	4節 空間図形 空間における直線や平面の位置関係やなす角についての理解を深める。 多面体などに関する基本的な性質について理解する。 それらを事象の考察に活用できる。 ――期末考査――	
		課題学習	4
		時間数合計	78 (74)

教科	数学	科目名	数学 B			
対象学年と群	2・3年 D群	一般・通信	必履修・選択必履修	選択	単位数	2
科目の目標	数列又はベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。					
学習内容	(1) 数列 簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 (2) ベクトル ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。					
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。				
	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、考察の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。				
	数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。				
	知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。				
評価の方法	定期考査、その他随時行われる小テスト、学習状況（学習態度）、欠席の実態などにもとづき、総合的に評価する。					
学習方法	・教科書、プリントに従って授業を進める。 ・適宜、プリントを使用する。					
教科書・教材 など	『新版数学B 新訂版』（実教出版）					
授業形態	一斉授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	1章 数列	21
	5	1節 数列とその和 等差数列と等比数列について理解する。 それらの一般項及び和を求めることができる。	
	6	――中間考査――	18
		2節 いろいろな数列 いろいろな数列の一般項や和について、その求め方を理解する。	
	7	事象の考察に活用できる。	
		3節 数学的帰納法 漸化式について理解する。	
	8	簡単な漸化式で表された数列について、一般項を求めることができる。 漸化式を事象の考察に活用できる。	
	9	数学的帰納法について理解する。 それを用いて簡単な命題を証明するとともに、事象の考察に活用できる。	
		――期末考査――	
2 (後期)	10	2章 平面上のベクトル	18
		1節 平面上のベクトル ベクトルの意味、相等、和、差、実数倍について理解する。	
	11	ベクトルの成分表示について理解する。 ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解する。 それらを平面図形の性質などの考察に活用できる。	
		――中間考査――	17
	12	2節 ベクトルの応用 位置ベクトルについて理解する。	
	1	3章 空間のベクトル	
		1節 空間のベクトル 座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを知る。	4
	2	――期末考査――	
	3	課題学習	
		時間数合計	78 (74)

教科	理科	科目名	物理基礎						
対象学年と群	2・3年 E群		一般	通信	必履修	選択必履修	選択	単位数	4
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。								
学習内容	導入 物理学が拓く世界 1編 物体の運動とエネルギー 1章 直線運動の世界 2章 力と運動の法則 3章 仕事とエネルギー 2編 さまざまな物理現象とエネルギー 1章 熱 2章 波 3章 電気 4章 エネルギー								
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度		・さまざまな物理現象を通して自然に対する関心や探究心を持ち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や物理学的に探究する態度を身に付けている。						
	思考・判断・表現		・物理現象に関する問題を見だし、科学的に探究する過程を通してそこから導き出した物理学的な考えを的確に表現することができる。						
	観察・実験の技能		・物理現象に関する実験・観察を行い、基本的な操作を修得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し自然の事物・現象を物理学的に探究する技能を見に付けている。						
	知識・理解		・さまざまな物理現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、物理学的な知識を身に付けている。						
評価の方法	定期考査、平素の学習状況、欠席状況やレポートの提出状況及びその内容によって、総合的に評価する。								
学習方法	・講義形式で教科書の内容に則した授業プリントを用いて授業を進める。 ・興味・関心を起こすための観察や演示実験を行う。 ・出題されたレポートに取り組み、期限までに提出する。								
教科書・教材 など	『改訂 新編物理基礎』（東京書籍）、授業プリント、レポート								
授業形態	一斉授業								

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	導入 物理学が拓く世界	1
		1編 物体の運動とエネルギー	
		1章 直線運動の世界	6
	5	1 速さ, 2 速度, 3 等速直線運動, 4 合成速度と相対速度, 5 加速度, 6 等加速度直線運動①, 7 等加速度直線運動②, 8 自由落下, 9 鉛直投射, 10 放物運動	
		2章 力と運動の法則	6
	6	11 力とは, 12 力のつりあい, 13 力の合成と分解, 14 作用・反作用の法則, 15 慣性の法則	
		1 学期中間考査	1
	7	16 力と質量と加速度の関係, 17 運動の法則, 18 摩擦力, 19 抵抗力と浮力,	
		3章 仕事とエネルギー	5
	8	20 仕事, 21 仕事の原理と仕事率, 22 運動エネルギー (夏季休業)	
	9	23 重力による位置エネルギー, 24 弾性力による位置エネルギー, 25 力学的エネルギーの保存, 26 いろいろな運動でみる力学的エネルギー	
		1 学期期末考査	1
2 (後期)	10	2編 さまざまな物理現象とエネルギー	
		1章 熱	4
		1 熱と温度, 2 物質の三態, 3 熱の移動と保存, 4 熱と仕事, 5 熱効率と不可逆変化	
	11	2章 波	4
		6 いろいろな波, 7 波の伝わり方, 8 波を表す, 9 波の重ね合わせ	
		2 学期中間考査	1
		10 定常波, 11 波の反射, 12 音の伝わり方, 13 振動する弦, 14 振動する気柱	
	12	3章 電気	4
	1	15 動かない電気、動く電気, 16 電量と電気抵抗, 17 直列接続と並列接続, (冬季休業)	
	2	18 電気と電力量, 19 電流がつくる磁場, 20 発電機のしくみ, 21 直流と交流, 22 電磁波	
		4章 エネルギー	3
		23 エネルギーの変換と保存, 24 エネルギーの利用, 25 放射線の利用, 26 原子力の利用	
		2 学期期末考査	1
	3	まとめ・復習	2
合 計			39 (37)

教科	理科	科目名	化学基礎						
対象学年と群	2・3年 C群		一般	通信	必修	選択必修	選択	単位数	3
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。								
学習内容	序編 化学と人間生活 1 編 物質の構成 1 章 物質の成分と構成元素 1. 物質の成分, 2. 物質の構成元素, 3. 物質の三態 2 章 原子の構造と元素の周期表 1. 原子の構造, 2. 電子配置と周期表 3 章 化学結合 1. イオンとイオン結合, 2. 分子と共有結合, 3. 金属と金属結合, 4. 化学結合と物質の分類 2 編 物質の変化 1 章 物質と化学反応式 1. 原子量・分子量・式量, 2. 物質, 3. 溶液の濃度, 4. 化学反応式と量的関係 2 章 酸と塩基 1. 酸と塩基, 2. 水素イオン濃度と pH, 3. 中和反応と塩, 4. 中和滴定 3 章 酸化還元反応 1. 酸化と還元, 2. 酸化剤と還元剤, 3. 金属の酸化還元反応, 4. 酸化還元反応の利用								
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度		・物質や化学現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や化学的に探究する態度を身に付けている。						
	思考・判断・表現		・物質や化学現象に関する問題を見だし、科学的に探究する過程を通してそこから導き出した化学的な考えを的確に表現することができる。						
	観察・実験の技能		・物質や化学現象に関する実験・観察を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し自然の事物・現象を化学的に探究する技能を身に付けている。						
	知識・理解		・物質や化学現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、化学的な知識を身に付けている。						
評価の方法	定期考査、平素の学習状況、欠席状況や実験レポートの提出状況及びその内容によって、総合的に評価する。								
学習方法	・講義形式で教科書の内容に則した授業プリントを用いて授業を進める。 ・興味・関心を起こすための演示実験や実験観察、生徒実験を行う。								
教科書・教材 など	『改訂新編化学基礎』（東京書籍）、授業プリント								
授業形態	一斉授業								

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	序編 化学と人間生活	2
		1編 物質の構成	
		1章 物質の成分と構成元素	18
	5	1. 物質の成分, 2. 物質の構成元素, 3. 物質の三態	
		2章 原子の構造と元素の周期表	19
	6	1. 原子の構造,	
		1学期中間考査	1
		2. 電子配置と周期表	
		3章 化学結合	19
	7	1. イオンとイオン結合, 2. 分子と共有結合,	
2 (後期)	8	(夏季休業)	
	9	3. 金属と金属結合, 4. 化学結合と物質の分類	
		1学期期末考査	1
	10	2編 物質の変化	16
		1章 物質と化学反応式	
		1. 原子量・分子量・式量, 2. 物質と, 3. 溶液の濃度,	
		4. 化学反応式と量的関係	
		2章 酸と塩基	16
	11	1. 酸と塩基, 2. 水素イオン濃度と pH	
		2学期中間考査	1
		3. 中和反応と塩, 4. 中和滴定	
	12	(冬季休業)	
	1	3章 酸化還元反応	17
		1. 酸化と還元, 2. 酸化剤と還元剤, 3. 金属の酸化還元反応,	
		4. 酸化還元反応の利用	
	2	2学期期末考査	1
		まとめ・復習	6
	3		
合 計			117 (111)

教科	理科	科目名	生物基礎			
対象学年と群	2・3年 D群		一般通信	必修修	選択必修修・選択	単位数 2
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
学習内容	序章－生命の探究 第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性、第2節 エネルギーと代謝、 第3節 光合成と呼吸 第2章 遺伝子とそのはたらき 第1節 遺伝情報と DNA、第2節 遺伝情報の発現、第3節 遺伝情報の分配 第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境とその維持 第1節 体内環境としての体液、第2節 腎臓と肝臓による調節、 第3節 神経とホルモンによる調節、第4節 免疫 第3編 生物の多様性と生態系 第4章 生物の多様性と分布 第1節 植生とその成り立ち、第2節 植生の移り変わり、 第3節 気候とバイオーム 第5章 生態系とその保全 第1節 生態系とその成り立ち、第2節 物質の循環とエネルギーの流れ、 第3節 生態系のバランスと保全					
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度		・生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する態度を身に付けている。			
	思考・判断・表現		・生物や生物現象に関する問題を見いだし、科学的に探究する過程を通してそこから導き出した生物学的な考えを的確に表現することができる。			
	観察・実験の技能		・生物や生物現象に関する観察、実験を行い、基本操作を修得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し自然の事物・現象を生物学的に探究する技能を身に付けている。			
	知識・理解		・生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、生物学的な知識を身に付けている。			
評価の方法	定期考査、平素の学習状況、欠席状況や実験レポートの提出状況及びその内容によって、総合的に評価する。					
学習方法	・講義形式で教科書の内容に則した授業プリントを用いて授業を進める。 ・興味・関心を起こすための演示実験や観察、生徒実験を行う。					
教科書・教材 など	『改訂版 新編生物基礎』（数研出版）、授業プリント					
授業形態	一斉授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	序章－生命の探求	1
	5	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性, 第2節 エネルギーと代謝, 第3節 光合成と呼吸	14
	6	1学期中間考査	1
	7	第2章 遺伝子とそのはたらき 第1節 遺伝情報とDNA, 第2節 遺伝情報の発現, 第3節 遺伝情報の分配 (夏季休業)	15
	8	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境とその維持 第1節 体内環境としての体液	8
	9	1学期期末考査	1
2 (後期)	10	第2節 腎臓と肝臓による調節, 第3節 神経とホルモンによる調節, 第4節 免疫	11
		第3編 生物の多様性と生態系 第4章 生物の多様性と分布 第1節 植生とその成り立ち	12
	11	2学期中間考査	1
	12	第2節 植生の移り変わり, 第3節 気候とバイオーム	
		第5章 生態系とその保全 第1節 生態系とその成り立ち (冬季休業)	9
	1	第2節 物質の循環とエネルギーの流れ 第3節 生態系のバランスと保全	
	2	2学期期末考査	1
	3	まとめ・復習	4
合 計			78 (74)

教科	保健体育	科目名	体育			
対象学年	2・3年		一般・通信	必履修・選択必履修・選択	単位数	3
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通し、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。					
学習内容	○体づくり運動 自己の体に関心を持ち、自己の体力や生活に応じた課題をもって次の運動を行い、体ほぐしをしたり、体力を高めたりするとともに、これらの運動を生活の中で実践することができるようにする。 ○陸上競技 自己の能力に応じて次の運動の技能を高め、競技したり、記録を高めたりすることができるようにする。 ア 競走 イ 跳躍 ウ 投てき ○球技 チームの課題や自己の能力に応じて次の運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。 ア) バスケットボール イ) サッカー ウ) バレーボール エ) 卓球 オ) バドミントン カ) ソフトボール ○体育理論 運動やスポーツの合理的、計画的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送る上で必要となるスポーツに関する科学的知識等を身につけ、豊かなスポーツライフの設計ができるようにする。					
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度	運動を継続することは健康の保持増進に役立つことを理解し、健康・スポーツに関する諸課題に関心を持ち、課題解決に向けて主体的に取り組もうとする。				
	思考・判断・表現	自己や仲間の課題に応じて、基礎的な知識や技能を活用し体の動かし方や運動の行い方を工夫している。				
	技能	生涯にわたる豊かなスポーツライフを継続するために、運動する楽しさや喜びを深く味わい、身に付けた技能をさらに高めたり、記録や技に挑戦したりしている。				
	知識・理解	運動を実生活に取り入れる意義や必要性を理解するとともに、競技会や試合の安全な行い方及び体力の高め方を身に付けている。				
評価の方法	平素の学習状況・欠席状況などにより、総合的に評価する。					
学習方法	・陸上競技では、競走、跳躍、投てきを4時間ずつ、全員で行う。 ・球技では、2学期より種目の選択希望をとる。選択種目が決定したら、種目ごとに、練習内容、チームを決め、協力して取り組む。					
教科書・教材 など	必要に応じて視聴覚教材					
授業形態	体づくり運動・体育理論・陸上競技については一斉授業。球技については選択授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元・目標・学習内容など	時数
1 (前期)	4	体づくり運動	7
	5	球技 ・バスケットボール ・バレーボール	18
	6		
	7	陸上競技	12
	8		
	9	球技 ・サッカー ・ソフトボール	23
2 (後期)	10	選択球技 ・バスケットボール ・バレーボール ・卓球 ・バドミントン	52
	11		
	12		
	1		
	2		
	3	体育理論	5
		時間数合計	117

教科	保健体育	科目名	保 健			
対象学年と群	2・3年 F群	一般	通信	必修・選択必修・選択	単位数	4
科目の目標	個人及び社会生活における健康・安全についての理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。					
学習内容	（１）現代社会と健康 我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が適切な生活行動を選択し実践すること及び環境を改善していく努力が重要であることを理解できるようにする。 （２）生涯を通じる健康 生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することの重要性が理解できるようにする。 （３）社会生活と健康 社会生活における健康の保持増進には、環境などが深くかかわっていることから、環境と健康、環境と食品の健康、労働と健康について理解できるようにする。					
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度	自他の心身の健康や安全に関心をもち、自ら健康で安全な生活を実践するため、進んで学習に取り組もうとする。				
	思考・判断	自他の心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に考え、選択すべき行動を適切に判断している。				
	知識・理解	健康・安全の意義を理解するとともに、心身の機能の発達や心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。				
評価の方法	定期考査・平素の学習状況・欠席状況などにより、総合的に評価する。					
学習方法	・ 単元ごとにプリント（学習ノート）を埋めながら、教科書を中心に授業をすすめる。 ・ ビデオなどの視聴覚教材を使い、学習の理解を深める。 ・ レポートを提出する。					
教科書・教材 など	『高等学校 改訂版 保健体育』（第一学習社）					
授業形態	一斉授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	第1章 現代社会と健康 健康の考え方	9
	5	生活習慣と健康 薬物乱用と健康	
	6	1学期中間考査	1
		現代の感染症 欲求とストレス	9
	7	交通事故と安全	
	8		
	9	応急手当	
		1学期末考査	1
2 (後期)	10	第2章 生涯を通じる健康 思春期と健康 妊娠出産と健康	8
	11	2学期中間考査	1
		加齢と健康	
	12	保健制度と健康	
	1	第3章 社会生活と健康 環境汚染と健康 食品衛生と健康	9
	2	労働と健康	
		2学期末考査	1
	3		
			39

教科	芸術	科目名	音楽Ⅰ			
対象学年と群	2・3年 E群		一般 (通信)	必修・選択必修・選択	単位数	4
科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。					
学習内容	1.ワールドミュージック（歌唱・鑑賞） 2.リズムアンサンブル（創作・鑑賞） 3.多様な表現を求めて(歌唱・器楽・創作) 4.曲の構成がもたらすもの(歌唱・器楽・創作) 5.舞台芸術の世界（鑑賞） 6.映画音楽(鑑賞) 7.和楽器の魅力(器楽・鑑賞) 8.自己表現(歌唱・器楽・創作)					
評価の観点 及び その趣旨	音楽への 関心・意欲・態度	音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。				
	音楽表現の 創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。				
	音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするために歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。				
	鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。				
評価の方法	定期考査（実技を含む）、平素の学習状況、ワークシートやレポートの提出状況及びその内容によって、総合的に評価する。					
学習方法	① 歌唱…読譜・発声及び芸術歌曲やポピュラーソングなどの独唱・二部(三部)合唱 ② 器楽…ギター・和楽器・器楽合奏 ③ 創作…作詞・リズムアンサンブルの作曲・楽曲の編曲・即興演奏 ④ 鑑賞…オペラ・ミュージカル・オーケストラ・日本の打楽器その他					
教科書・教材 など	『MOUSAⅠ』（教育芸術社）、DVD等の視聴覚教材					
授業形態	一斉授業・グループ学習・個別指導					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	ワールドミュージック(歌唱・鑑賞)	5
	5		
		リズムアンサンブル(創作・鑑賞)	5
	6	――中間考査――	1
	7		
	8		
	9	多様な表現を味わおう(歌唱・器楽・創作)	8
			1
		――期末考査――	
2 (後期)	10	曲の構成がもたらすもの(歌唱・器楽・創作)	2
	11	舞台芸術の世界(鑑賞)	2
		――中間考査――	1
	12	映画音楽(歌唱・鑑賞)	3
	1		
		和楽器の魅力(器楽・鑑賞)	2
	2	自己表現(歌唱・器楽・創作)	6
		――期末考査――	1
	3	発表・実践	2

教科	芸術	科目名	書道Ⅰ			
対象学年と群	2・3年 E群		一般・通信	必修修・選択必修修・選択	単位数	4
科目の目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。					
学習内容	1 書へのいざない ①書道の学習 ②調和よく書いてみよう 2 漢字の書の学習 ①楷書の古典に学ぼう ②行書の古典に学ぼう ③篆刻を学ぼう 3 仮名の書の学習 ①仮名の基本を学ぼう ②仮名のリズムをつかんで連綿を書こう ③古筆に学ぼう 4 漢字仮名交じりの書の学習 ①創作しよう ②自分らしい表現を求めて ③構成を工夫しよう ④漢字仮名交じりの書の名筆を鑑賞しよう					
評価の観点 及び その趣旨	書への 関心・意欲・態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。				
	書表現の 思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。				
	創造的な書表現 の技能	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を活かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。				
	鑑賞能力	日常生活の書の効能や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。				
評価の方法	定期考査（実技を含む）、平素の学習・作品提出状況、欠席状況やレポートの提出状況及びその内容によって、総合的に評価する。					
学習方法	・臨書は教科書にある法帖を使用する。 ・基本用筆は個人に範書して見せる。 ・個別指導をしながら作品を毎時間提出する。添削後、次の時間に清書して仕上げる。					
教科書・教材 など	『書Ⅰ』（教育図書）					
授業形態	一斉授業・個別指導					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	書へのいざない 楷書の学習	11
	5		
	6	——中間考査——	1
	7	行書の学習①	7
	8		
	9	——期末考査——	1
2 (後期)	10	行書の学習②	5
		仮名の学習	
	11	——中間考査——	1
	12	篆刻の学習	5
	1	漢字仮名交じり書の学習（創作）	5
	2	——期末考査——	1
	3	作品の鑑賞・まとめ	2

教科	外国語	科目名	コミュニケーション英語 II			
対象学年と群	2・3年 B群		一般通信	必修・選択必修	選択	単位数 4
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を伸ばす。					
学習内容	ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 A. 題材は、学習者が身近に感じ、かつ学習者の知的好奇心を満足させ得る、バラエティに富んだ内容のものを扱う。前半の課では学習者が身近に感じる話題を扱い、後半の課では学習者に職業を意識させるものや論理的に考えさせる題材を扱う。 B. 題材内容を一方的に与えるだけでなく、学習者自身の意見を引き出したり、クラスメイトに意見を聞いたりする活動など、4技能を有機的に関連させる活動をおこなう。 C. 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図る態度を育成することが可能なように、本文理解のための設問指示文は英語を中心とする。ただし、学習者の負担に配慮して、具体的な解答例の提示などの工夫をする。					
評価の観点 及び その趣旨	コミュニケーションへの関心・意欲・態度		コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。			
	外国語表現の能力		外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。			
	外国語理解の能力		外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。			
	言語や文化についての知識・理解		外国語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。			
評価の方法	リスニングを含む中間・期末考査、単語テスト、音読・暗唱テスト、授業の参加状況、課題の取り組み状況等を5段階（5、4、3、2、1）で評価する。					
学習方法	年間を通して、教科書を中心に学習を進める。 課ごとに、単語学習資料、本文学習資料、問題演習資料を配布し、学習の手助けをする。 生徒は単語の意味調べ、本文の内容理解を授業時間内に行う。またコミュニケーション活動を通して、聞く・話す能力を養う。単語テストや暗唱テストを通して基礎・基本の定着をはかる。					
教科書・教材 など	Revised COMET English Communication II（数研出版）					
授業形態	一斉授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	Lesson 1 Staying in Space 文の構造を理解して、宇宙滞在について自分の考えを表現する。	12
	5	Lesson 2 Doraemon in the U.S. 不定詞を用いて、アニメについて自分の考えを表現する。	12
	6	Lesson 3 Farm in the Sky 疑問詞＋不定詞を用いて、食糧問題について自分の意見を表現する。	12
		―― 中間考査 ――	1
	7		
		Lesson 4 Goal Setting 分詞構文を用いて、自分の将来について自分の考えを表現する。	13
	8		
		Lesson 5 The High School Student Restaurant 形式主語を用いて、働くことについて自分の考えを表現する。	13
	9		
		Lesson 6 Why Is It That Shape? 関係代名詞を用いて物事の背景について自分の考えを表現する。	13
2 (後期)		Activity 1 At a Fast-food Restaurant	1
		―― 期末考査 ――	1
	10	Lesson 7 Fuji, a Dolphin With a New Fin 過去完了を用いて、動物と人間の関わりについて自分の考えを表現する。	12
		Lesson 8 Do We Need That? 使役動詞を用いて、サービスについて自分の考えを表現する。	12
	11	Lesson 9 Changing Feelings 関係代名詞を用いて気分転換の方法について自分の考えを表現する。	11
		―― 中間考査 ――	1
		Lesson 10 Ban Shigeru, Architect of Paper 関係副詞を用いて、緊急支援について自分の考えを表現する。	11
	12		
		Lesson 11 Win for Our Nation 知覚動詞を用いて、他者との共存について自分の考えを表現する。	11
	1		
		Lesson 12 From Small Factories to the World 仮定法を用いて、将来期待される発明について自分の考えを表現する。	11
	2		
		―― 期末考査 ――	1
	3		
		まとめ・復習	8
		時間数合計	156

教科	外国語	科目名	英語表現Ⅰ					
対象学年と群	2・3年 E群		一般	通信	必修・選択必修	選択	単位数	4
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。							
学習内容	ア、与えられた話題について即興で話す。また、聞き手や目的に応じて簡潔に話す。 ・各レッスンの話題に関する英会話や”Daily Conversation”のコーナーでペアで会話練習を行う。 イ、読み手や目的に応じて、簡潔に書く。 ・ワークシートの重要表現を参考にレポート等の英文を完成させる。 ウ、聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。 ・”Speaking Station”のコーナーで、ショートスピーチを行う。 ・”Speak Up!”のパートで、自分の考えを英語で表現する。 *各レッスンで文法項目を系統的に学習しながら、話題別に様々な表現を身につける。							
評価の観点 及び その趣旨	コミュニケーションへの関心・意欲・態度		コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。					
	外国語表現の能力		事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。					
	外国語理解の能力							
	言語や文化についての知識・理解		英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。					
評価の方法	定期考査、授業内での観察、授業用シートの活用状況、レポートの提出状況や内容等を総合的に評価する。							
学習方法	おもに教科書と授業用シートを使う。ペアワーク等のコミュニケーション活動を取り入れた一斉授業。必要に応じて視聴覚教材を用いる。							
教科書・教材 など	『SELECT English ExpressionⅠ New Edition』（三省堂）							
授業形態	一斉授業							

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	Let's Start 1～3	2
		Lesson 1 自己紹介 [あいさつ] ○現在形：be 動詞／一般動詞	1
	5	Lesson 2 宇宙で食事 [世界の食文化] ○過去形：be 動詞／一般動詞	1
		Lesson 3 世界へ羽ばたけ [スポーツ] ○進行形：現在進行形／過去進行形	1
		Lesson 4 エーゲ海の島へ [旅行] ○未来表現：will／be going to	1
	6	G トレプラス 1 / つなぎ言葉ランキング第①回	1
		Speaking Station 1 / Daily Conversation ①	2
		—— 中間考査 ——	1
		Lesson 5 アイドル [芸能] ○現在完了形①：継続／経験	1
	7	Lesson 6 祭りだ！祭りだ！ [日本文化] ○現在完了形②：完了／現在完了進行形	1
		Lesson 7 未来のエネルギー [環境] ○助動詞①：can／may	1
	8	Lesson 8 世界平和のために [国際社会] ○助動詞②：must／have to／should	1
		G トレプラス 2 / つなぎ言葉ランキング第②回	2
	9	Speaking Station 2 / Daily Conversation ②	2
2 (後期)		—— 期末考査 ——	1
		まとめ・復習	1
	10	Lesson 9 沖縄美ら海水族館 [生き物] ○不定詞①：副詞的用法／名詞的用法	1
		Lesson 10 未来を切り拓く [生き方] ○不定詞②：形容詞的用法／It～ (for～) to...	1
		Lesson 11 はやぶさ 2 の挑戦 [自然科学] ○動名詞	1
	11	Lesson 12 不思議な絵 [芸術] ○受動態	2
		G トレプラス 3 / つなぎ言葉ランキング第③回	2
		Lesson 13 ヒエログリフ [外国語・ことば] ○分詞：現在分詞／過去分詞	2
		—— 中間考査 ——	1
	12	Lesson 14 私たちの街にガオー [ご当地] ○関係代名詞：that／who／which	1
		Lesson 15 書道甲子園 [活躍する高校生]	
		○関係代名詞②：what ○関係副詞：where／when／why	1
	1	Lesson 16 どれが一番？ [地理] ○比較：比較級／最上級／as...as～	1
		Lesson 17 限りある水 [国際協力] ○知覚動詞／使役動詞	1
	2	Lesson 18 ピサの斜塔 [世界遺産] ○仮定法過去：If～／I wish～	1
		G トレプラス 4 / G トレプラス 5	2
		—— 期末考査 ——	1
	3	まとめ・復習	1
		時間数合計	39

教科	外国語	科目名	英語会話			
対象学年と群	2・3年 C群		一般 通信	必履修・選択必履修	選択	単位数 3
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。					
学習内容	ア 相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答する。 イ 関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。 ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを場面や目的に応じて適切に伝える。 エ 海外での生活に必要な基本的な表現を使って会話する。 Ⅰ 表現の能力 〔話すこと〕 ・各レッスンの話題に関する英会話でパートナーと会話練習を行う。 ・便利な表現を含む短い会話の中で、語句を入れ替えて会話練習を行う。 ・図や表から必要な情報を読み取り、会話練習を行う。 ・自分の考えなどをまとめて英語で話す。 〔書くこと〕 ・図や表から読み取った適切な情報や自分の考えを書く。 Ⅱ 理解の能力 〔聞くこと〕 ・各レッスンの話題の内容とイラストを説明した英文を聞き、その文が各内容に合っているかどうか答える。 ・さまざまな短文、会話などを聞き、内容に合うものを選択肢から選ぶ。 〔読むこと〕 ・英語特有の発音のしかたや音のつながりに注意して読む。 ・日本、海外の文化的な話題を含む本文を読む。 ・各レッスン後の“CULTURE TALK”のコーナーで、日本や海外の文化に関するまとめた文章を読む。					
評価の観点 及び その趣旨	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。				
	外国語表現の能力	日常生活の身近な話題について、情報や考えなど自分が伝えたいことを英語で話して伝えている。				
	外国語理解の能力	日常生活の身近な話題について、英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解している。				
	言語や文化についての 知識・理解	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。				
評価の方法	定期考査、インタビューテスト、授業参加・発表について観察による評価、授業用ワークシートの活用状況等を総合的に評価する。					
学習方法	おもに教科書とワークシートを使う。ペアワーク等のコミュニケーション活動を取り入れた一斉授業。必要に応じて視聴覚教材を用いる。					
教科書・教材 など	『My Passport English Conversation』（文英堂）					
授業形態	一斉授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	Lesson 1 <i>Making Conversation</i> <i>CULTURE TALK 1 Family Introduction</i>	8 1
	5	Lesson 2 <i>At the Hotel</i> <i>CULTURE TALK 2 Body Language / Quick Response</i>	8 1
	6	Lesson 3 <i>Going Sightseeing</i> <i>CULTURE TALK 3 Schedule</i> —— 中間考査 ——	8 1 1
	7	Lesson 4 <i>Small Business</i> <i>CULTURE TALK 4 Telephone</i>	8 1
	8	Lesson 5 <i>Eating Out</i> <i>CULTURE TALK 5 Letters / E-mail</i>	9 1
	9	Lesson 6 <i>Going Shopping</i> <i>CULTURE TALK 6 School Life</i> —— 期末考査 ——	9 1 1
	10	Lesson 7 <i>Public Transportation</i> <i>CULTURE TALK 7 Japanese Manners / Katakana Words</i>	10 2
	11	Lesson 8 <i>Getting Help</i> —— 中間考査 ——	10 1
	12	<i>CULTURE TALK 8 Traditional and Pop Culture</i>	2
	1	Lesson 9 <i>Going Out</i> <i>CULTURE TALK 9 Origami</i>	10 2
2 (後期)	2	Lesson 10 <i>Taking a Flight</i> <i>CULTURE TALK 10 Cooking</i> —— 期末考査 ——	11 2 1
	3	まとめ・復習	8
		時間数合計	117

教科	英 語	科目名	総合英語			
対象学年と群	2・3年 A群		一般通信	必修修・選択必修修	選択	単位数 4
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を一層伸ばし、社会生活において活用できるようにする。					
学習内容	(1) 英語の発音やリズム、イントネーションなどについて理解する。 (2) まとまった内容の英語を聞き、(1)に関連した知識、語彙・文法事項についての知識を活用するなどして、その概要や要点を把握する。 (3) 目的や場面、状況を理解し、ペア、グループで英語を使って対話する。 (4) 特定のテーマについて情報や自分の考えを整理し、図や写真等を活用するなどして、発表活動（スピーチやプレゼンテーションなど）を行う。 (5) 説明文、随筆、物語など様々なタイプの英文読み、論旨の構成や修辭的特徴を理解し、概要や要点を把握する。 (6) 特定のテーマについて情報や自分の考えを整理し、語彙・文法・構文などを効果的に用いながら、英語でレポート（文章）を書く。 (7) いくつかのテーマから自ら選択したものについて課題研究を行う。書籍やインターネットなどを活用するなどして調べたり、考えたりしたことを整理し、英語でレポート（文章）を書いたり、発表活動（スピーチやプレゼンテーションなど）を行う。					
評価の観点 及び その趣旨	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度		コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。			
	英語表現の能力		英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。			
	英語理解の能力		英語で聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。			
	言語や文化についての 知識・理解		英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。			
評価の方法	中間・期末考査のスコアだけでなく、特定のテーマについて面接形式で教師とのやりとりや発表活動等のパフォーマンステストを行い、平素の学習への取り組み状況も加味した上で、総合的に評価する。					
学習方法	音読・シャドーイングなどを取り入れながら、英語独特のリズムやイントネーションに親しむ。また、英文の精読を通して、中学校から高校2年次程度までの既習語彙や文法事項を復習する。英文の内容に関連する音声教材、読み物、動画等にも触れ、題材に関する自分の考え等をまとめ、やり取りしたり、発表活動を行ったりする。					
教科書・教材 など	『Blossom 1』（文英堂）、辞書、ワークシート、視覚教材					
授業形態	一斉授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	UNIT 1 ラグビーのはじまり [言語教材：文のパターンと動詞] ○「私の好きなスポーツ」(対話・面接)	7 4
	5	UNIT 2 風船が届けたすてきな夢 [言語材料：時制 (現在・過去)] ○動画視聴・意見交換 (対話・面接)	7 3
1 (前期)	6	UNIT 3 米寿の祝いと数え年 [言語材料：時制 (未来)] ○「私が紹介したい日本」(レポート・英作文)	7 4
		中間考査	1
	7	UNIT 4 スマートフォンを探してくれたイルカ [言語材料：現在進行形・過去進行形] ○動画視聴・意見交換 (対話・面接)	7 3
		UNIT 5 ニューヨークでのラーメン人気 [言語材料：現在完了] ○「英語で伝える和食のレシピ」(レポート・英作文)	7 4
	8	UNIT 6 ワークショップへの案内 [言語材料：助動詞] ○課題研究① (導入説明・テーマの決定など)	7 4
	9	UNIT 7 地球温暖化にともなう氷河の変化 [言語材料：受動態] ○課題研究② (原稿作成)	8 4
		期末考査	1
	10	UNIT 8 絵画展での悲劇 [言語材料：不定詞①] ○課題研究③ (原稿作成)	6 3
		UNIT 9 盲導犬の飼い主カップル [言語材料：不定詞②] ○課題研究④ (原稿作成)	6 3
	11	UNIT 10 タイの正月の祝い方 [言語教材：動名詞] ○課題研究⑤ (原稿作成・プレゼンテーション資料作成)	6 3
2 (後期)		UNIT 11 日本の新たな地図記号 [言語材料：分詞] ○課題研究⑥ (プレゼンテーション資料作成・最終調整)	6 3
	12	中間考査	1
		UNIT 12 クッキー泥棒 [言語材料：関係代名詞①] ○課題研究⑦ (プレゼンテーション資料作成・最終調整)	6 3
	1	UNIT 13 タコの生態 [言語材料：関係代名詞②] ○課題研究⑧ (発表・評価)	5 4
		UNIT 14 東京圏の電車の混雑 [言語教材：比較①] ○動画視聴・意見交換 (対話・面接)	6 4
	2	UNIT 15 ゴールデン・ゲート・ブリッジの歴史 [言語材料：比較②] ○動画視聴・意見交換 (対話・面接)	6 3
		期末考査	1
	3	まとめ [言語材料：既習事項すべて]	3
		時間数合計	156

教科	英 語	科目名	総合英語					
対象学年と群	2・3年 G群		一般	通信	必修・選択必修	選択	単位数	3
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を一層伸ばし、社会生活において活用できるようにする。							
学習内容	(1) 発音 (2) 聴解 (3) 対話 (4) スピーチ (5) 読解 (6) 作文 などをおして課の学習内容を確認し、基礎・基本の定着を図る。 I 表現の能力 [話すこと] ・単語の発音練習や本文の音読練習をして、英語を正しい発音で読めることを目指す。 ・日常会話でよく使う表現を繰り返し練習して使えるようにする。 ・ALT に自分の考えを伝える。 [書くこと] ・ペアで相手が読んだことを聞いて、書き取る。 ・与えられた表現を使って、文章を完成させる。 II 理解の能力 [聞くこと] ・各レッスンでリスニングの練習を行う。 ・英語の指示を聞いて活動する。 [読むこと] ・各レッスンの内容を正しく読み取り、理解する。							
評価の観点 及び その趣旨	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度		コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。					
	英語表現の能力		英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。					
	英語理解の能力		英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。					
	言語や文化についての 知識・理解		英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。					
評価の方法	中間考査、期末考査、授業中でのインタビューテスト、平素の学習状況、出席状況、定められた課題の提出状況ならびにその内容等にもとづき評価する。							
学習方法	発音や読みの練習を繰り返すことで、英語に慣れる。教科書に即したワークシートを使用し、英文を正確に書けるよう、反復練習をする。既習事項を手がかりに、内容理解をすすめる。							
教科書・教材 など	『Blossom 1』(文英堂)、辞書、ワークシート、視覚教材							
授業形態	一斉授業							

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	UNIT 1 ラグビーのはじまり 文型と動詞を理解する。	7
	5	UNIT 2 風船が届けたすてきな夢 時制（現在・過去）を用いて、将来について自分の考えを表現する。	7
		UNIT 3 米寿の祝いと数え年 時制（未来）を用いて、日本の文化について自分の考えを表現する。	7
	6	—— 中間考査 ——	1
		UNIT 4 スマートフォンを探してくれたイルカ 進行形を用いて、コミュニケーションの方法について自分の考えを表現する。	7
	7	UNIT 5 ニューヨークでのラーメン人気 完了形を用いて、料理について自分の考えを表現する。	7
	8	UNIT 6 ワークショップへの案内 助動詞を用いて趣味について自分の考えを表現する。	8
	9	UNIT 7 地球温暖化にともなう氷河の変化 受動態を用いて、環境問題について自分の考えを表現する。	8
		—— 期末考査 ——	1
2 (後期)	10	UNIT 8 絵画展での悲劇 不定詞を用いて、芸術について自分の考えを表現する。	7
		UNIT 9 盲導犬の飼い主カップル 不定詞を用いて、人との出会いについて自分の考えを表現する。	7
		UNIT 10 タイの正月の祝い方 動名詞を用いて、異文化について自分の考えを表現する。	7
	11	UNIT 11 日本の新たな地図記号 分詞を用いて、ユニバーサルデザインについて自分の考えを表現する。	7
		—— 中間考査 ——	1
		UNIT 12 クッキー泥棒 関係代名詞を用いて、やりとりの誤解について自分の考えを表現する。	7
	12	UNIT 13 タコの生態 関係代名詞を用いて、興味のある動物について自分の考えを表現する。	7
	1	UNIT 14 東京圏の電車の混雑 比較を用いて、公共交通機関について自分の考えを表現する。	8
		UNIT 15 ゴールデン・ゲート・ブリッジの歴史 比較を用いて、建築物について自分の考えを表現する。	8
	2	—— 期末考査 ——	1
	3	まとめ・復習	4
		時間数合計	117

教科	英語	科目名	異文化理解					
対象学年と群	2・3年 F群		一般	通信	必履修・選択必履修	選択	単位数	4
科目の目標	英語を通じて、外国の事情や異文化について理解を深めるとともに、異なる背景をもつ人々と積極的にコミュニケーションを図るための態度や能力の基礎を養う。							
学習内容	(1) 日常生活 (2) 社会生活 (3) 風俗習慣 (4) 地理・歴史 (5) 伝統文化 (6) 科学技術 (7) 異文化理解 ・(1)～(7)を通して地域の事情や文化を取り上げ、外国事情、外国文化との類似点／相違点について考える。 ・各レッスンの話題に関する内容理解を行う。 ・各レッスンの文法確認の問題を通して基礎・基本の定着をはかる。 ・特集などのパートで、写真や絵などの内容を正しく表している英文を聞きとる。 ・各レッスンの重要表現を含む英文の意味を正しく理解し、読みとる。							
評価の観点 及び その趣旨	コミュニケーションへの関心・意欲・態度		コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。					
	外国語理解の能力		英語で聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。					
	外国語表現の能力		英語を話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。					
	言語や文化についての知識・理解		英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。					
評価の方法	定期考査、小テスト、授業の参加状況、レポートの提出状況や内容等を総合的に評価する。							
学習方法	おもに副教材と授業用シートを使う。ペアワーク等のコミュニケーション活動を取り入れた一斉授業。必要に応じて視聴覚教材を用いる。							
教科書・教材 など	『Watching Joyful 2021>2022』（浜島書店）、補助プリント							
授業形態	一斉授業							

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など		時数
1 (前期)	4	特 集	News Watcher	2
		Lesson 1	50 Years of Kamen Rider 幼少期のヒーローについて英語で自分の考えを表現する。	2
	5	Lesson 2	Shogi Player: Fujii Sota 憧れの選手について英語で自分の考えを表現する。	2
		Lesson 3	Technology Creates New Sports	2
	6		好きなスポーツについて英語で自分の考えを表現する。	
		Lesson 4	A Little Animal Called Cheburashka 好きなキャラクターについて英語で自分の考えを表現する。	2
		特 集	Is Your English Correct?	2
	7	—— 中間考査 ——		1
	8	Lesson 5	River of Five Colors 環境問題について英語で自分の考えを表現する。	2
	9	Lesson 6	Kimetsu no Yaiba Boom 好きなアニメについて英語で自分の考えを表現する。	2
		Lesson 7	Antarctic Exploration 観光名所について英語で自分の考えを表現する。	2
		—— 期末考査 ——		1
2 (後期)	10	Lesson 8	QuizKnock Tells Fun of Learning クイズ番組について英語で自分の考えを表現する。	2
		特 集	英語で SNS を使ってみよう	2
	11	Lesson 9	High School Udon Ambassadors あったらいいと思う部活について英語で自分の考えを表現する。	2
		Lesson 10	Beautiful Country: Finland	2
	12		行ってみたい国について英語で自分の考えを表現する。	
		—— 中間考査 ——		1
	1	Lesson 11	What Do You Want to Be? 将来の夢について英語で自分の考えを表現する。	2
	2	Lesson 12	Vinegar for Your Health 健康を維持する方法について英語で自分の考えを表現する。	2
		特 集	World Heritage Sites Around the World	2
	3	—— 期末考査 ——		1
		まとめ・復習		3
		時間数合計		39

教科	家庭	科目名	家庭総合			
対象学年と群	2・3年 F群		一般・通信	必修・選択必修	選択	単位数 4
科目の目標	人の一生と家族・家庭、こどもや高齢者のかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につける。					
学習内容	1編 人とかかわって生きる 1章 自分らしい生き方と家族 2章 子どもとかかわる 3章 高齢者とかかわる 4章 社会とかかわる 2編 生活をつくる 1章 食生活をつくる 2章 衣生活をつくる 3章 住生活をつくる 3編 消費者として自立する 1章 消費行動を考える 2章 経済的に自立する 生活設計 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動					
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度	家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。				
	思考・判断・表現	家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。				
	技能	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。				
	知識・理解	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。				
評価の方法	定期考査、出席状況、授業態度、レポート等を総合的に評価する。					
学習方法	・学習プリントを使用し、年間を通して、教科書を中心に進める。 ・現状を知ることの中から、生活の課題を見つけ、課題について、新しい生活を創造する視点を持つ。 ・レポートを提出する。					
教科書・教材 など	『新家庭総合 パートナーシップでつくる未来』（実教出版）					
授業形態	一斉授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	1 編 人とかかわって生きる 1 章 自分らしい生き方と家族	2
	5	2 章 子どもとかかわる	3
		3 章 高齢者とかかわる	2
	6	4 章 社会とかかわる	1
		―― 中間考査 ――	1
	7	2 編 生活をつくる 1 章 食生活をつくる	10
	8		
	9	―― 期末考査 ――	1
2 (後期)	10	2 章 衣生活をつくる	4
	11	3 章 住生活をつくる	4
	12	―― 中間考査 ――	1
	1	3 編 消費者として自立する 1 章 消費行動を考える	4
	2	2 章 経済的に自立する	2
		生活設計 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	1
		―― 期末考査 ――	1
	3	まとめ復習	2
		時間数合計	39

教科	家庭	科目名	子どもの発達と保育			
対象学年と群	2・3年 B群		一般通信	必履修・選択必履修	選択	単位数 4
科目の目標	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得し、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を身につける。					
学習内容	1章 子どもの発達の特性 1節 発達と乳幼児期の意義 2節 発達と保育環境 3節 児童観と発達観 2章 子どもの発達の過程 1節 子どもの発育 2節 子どもの精神発達 3節 人間関係の発達 3章 子どもの生活 1節 生活と養護 2節 子どもの遊び 3節 生活習慣の形成 4節 健康管理と事故防止 4章 子どもの保育 1節 保育の意義と重要性 2節 家庭保育と集団保育 3節 保育の方法 5章 子どもの福祉 1節 子どもの福祉 2節 子育て支援					
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度	子どもの身体的・精神的発達や保育に関して、関心をもち、それらを意欲的に学ぶ姿勢がみられる。				
	思考・判断・表現	子どもの発達や保育に関わる幅広い知識を身に付け、また実習や考察などを通して子どもの行動を客観的に判断する思考を育み、子どもの成育、行動、感情、生活などについて理解を深めることができる。これらに関する自身の考えを、レポートや研究発表などで表現できる。				
	技能	子どもの発達や保育に関わる事柄について、実習や観察を通じて知識を深めることができ、子どもを取り巻く問題について推測・考察ができる。				
	知識・理解	子どもの発達や保育に関する幅広い知識を習得し、子どもの行動や生活に関する基本的な事項が理解できている。				
評価の方法	定期考査、出席状況、授業・実習態度、実技試験、提出物等を総合的に評価する。					
学習方法	・ 授業プリントを使用し、年間を通して、教科書を中心に進める。 ・ 実習を行う。					
教科書・教材 など	『子どもの発達と保育 新訂版』（実教出版）					
授業形態	一斉授業、実習・実験					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	1章 子どもの発達の特徴 1節 発達と乳幼児期の意義	22
	5	2節 発達と保育環境 3節 児童観と発達観	
	6	2章 子どもの発達の過程 1節 子どもの発育	32
		―― 中間考査 ――	1
	7	2節 子どもの精神発達 3節 人間関係の発達	
	8	3章 子どもの生活 1節 生活と養護 2節 子どもの遊び	22
	9	―― 中間考査 ――	1
	10	3章 子どもの生活 3節 生活習慣の形成 4節 健康管理と事故防止	16
	11	4章 子どもの保育 1節 保育の意義と重要性	24
2 (後期)		―― 中間考査 ――	1
	12	2節 家庭保育と集団保育 3節 保育の方法	
	1	5章 子どもの福祉 1節 子どもの福祉 2節 子育て支援	22
	2	―― 期末考査 ――	1
	3	まとめ・復習	8
		時間数合計	156

教科	家庭	科目名	フードデザイン					
対象学年と群	2・3年 A群		一般	通信	必履修・選択必履修	選択	単位数	4
科目の目標	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得し、食生活を総合的にデザインするとともに、食育の推進に寄与する能力と態度を身につける。							
学習内容	第1章 健康と食生活 1 食事の意義と役割 2 食を取り巻く現状 第2章 栄養素・食品の特徴 1 栄養素のはたらき 2 健康に必要な栄養素 3 食品の特徴 4 食品の加工の目的 5 食品の選択と取り扱い 第3章 調理と献立 1 調理の基本 2 ライフステージと食事計画 3 献立作成 4 様式別の献立と調理・食卓作法 5 食文化を見つめる 6 テーブルコーディネート 第4章 調理実習 第5章 豊かな食生活をつくる 1 国民運動としての食育の推進							
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度		豊かな食事を構成する要素に関心を持ち、食生活の充実向上に					
	思考・判断・表現		取り組む意欲と実践的な態度を身につけている。					
	技能		自分自身の食生活や、食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深める。また、考えをまとめて判断ができる。					
	知識・理解		調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を習得することができる。					
評価の方法	定期考査、実技試験、出席状況、授業・実習態度、提出物等を総合的に評価する。							
学習方法	年間を通して、教科書を中心に進め、調理実習など適宜おこなう。							
教科書・教材 など	『フードデザイン cooking & arrangement』（教育図書）							
授業形態	一斉授業、調理実習							

【年間指導計画】

学期	月	単元・目標・学習内容など	時数
1 (前期)	4	1 章 健康と食生活 食の意義と役割	30
	5	食を取り巻く現状	
		4 章 調理実習	46
	6	日常食・和風献立・料理 —— 中間考査 ——	1
		日常食・洋風献立・料理	
	7	日常食・中国料理献立・料理	
	8		
	9	行事食 様式別献立 —— 期末考査 ——	1
2 (後期)	10	2 章 栄養素・食品の特徴 栄養素のはたらき 健康に必要な栄養素 食品の特徴 食品加工の目的 食品の選択と取り扱い	28
	11	—— 中間考査 ——	1
			26
	12	3 章 調理と献立 調理の基本 ライフステージと食事計画 献立作成 様式別の献立と調理・食卓作法 食文化を見つめる	
	1	テーブルコーディネート	
		5 章 豊かな食生活をつくる 国民運動としての食育推進	14
	2	—— 期末考査 ——	1
	3	まとめ・復習	8
		時間数合計	156

教科	情報	科目名	社会と情報			
対象学年と群	2・3年 F群		一般 (通信)	必修修・選択必修修・選択	単位数	4
科目の目標	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。					
学習内容	1章 情報社会とわたしたち 1 情報社会 2 情報とメディア 3 情報モラルと社会のルール 2章 情報機器とデジタル表現 1 情報機器とデジタル 2 デジタル表現 3章 表現と伝達 1 表現の工夫 2 表計算ソフトの利用 3 プレゼンテーション 4章 コミュニケーションとネットワーク 1 コミュニケーション 2 ネットワーク 3 情報セキュリティ 5章 情報社会と問題解決 1 情報システムと人間 2 問題解決 3 情報発信					
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度	情報や情報社会に関心をもち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする。				
	思考・判断・表現	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。				
	技能	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。				
	知識・理解	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。				
評価の方法	定期考査、平素の学習状況、欠席状況やレポートの提出状況及びその内容によって、総合的に評価する。					
学習方法	・教科書を中心に、パソコンを操作しながら授業を行う。 ・授業用プリントを使用する。 ・パソコンを使って演習をする。					
教科書・教材 など	『最新社会と情報 新訂版』（実教出版）					
授業形態	一斉授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	1章 情報社会と私たち	4
	5	2章 情報機器とデジタル表現	5
	6	――中間考査――	1
	7	3章 表現と伝達	9
	8		
	9	――期末考査――	1
2 (後期)	10	4章 コミュニケーションとネットワーク	9
	11		
		――中間考査――	1
	12		
	1	5章 情報社会と問題解決	6
	2	――期末考査――	1
	3	発表・実践	2
		時間数合計	39 (37)

「総合的な探究の時間」

自ら課題を見つけ、自ら学び考え、問題を解決する力などの「生きる力」を育てます。

調べ方、情報の集め方、まとめ方、報告や発表・討論の仕方などの学び方やものの考え方を身につけ、問題解決に向けての主体的な態度を育てたり、自己をみつめ、将来について考え、卒業後の進路を主体的に選択するなど、自己の在り方や生き方について考えることができるようにします。

観察・実験・実習、調査・研究、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的・問題解決的な学習を取り入れ、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題について学習します。

開講講座例（昨年度のもの）

テーマ	目 標	活 動 内 容
「こうさく」しよう	いろいろなものを「こうさく」することで“ものづくり”に触れる。	耕作、工作、交錯（?）
小さな読書会	本を読む楽しさを分かち合う。	みんなで同じ本を読み、簡単な意見交換を行う。（意見交換に参加できる人を希望）
まわし読み新聞を作ろう	自分の興味・関心を広げるとともに、他者への理解を深める。	各自が気になった新聞記事を切り抜き、発表した後、記事を模造紙に貼り付け「まわし読み」新聞を作成する。
音楽で世界を広げよう	いろいろな音楽にふれ、楽しむことで、自分の世界を広げよう。	いろいろな音楽を聴き、歌い、演奏して楽しむ。後半で曲作りに取り組み、発表する。
トレーニング	・健康の保持、増進 ・体力、柔軟性の向上	・補強運動 ・ランニング
表現活動	ゆたかな想像力と表現力をやしなひ、責任感と自主性を育てる。	ダンスや演劇、コントなどの表現活動に挑戦してみる。
お茶で世界を歩く	お茶を通して世界の文化を学ぶと同時に、日本文化を体験する。	前期は世界各地のお茶と文化を体験する。後期は抹茶（薄茶）の点て方を練習し、文化祭で点前を披露する。 ※正座ができること。4人まで。
手作り小物	手縫いの基本を身につけ、作品を作る。	手芸小物やぬいぐるみなどを作る。作品は文化祭で展示する。 （布代自己負担）
イラスト	文化祭で作品を発表することを目標にイラストを描く。自己の表現力を養う。	イラスト・漫画等、自分の描きたいものを自由に描く。作品は文化祭で展示する。

※開講講座は、年度ごとに変更する。

の時間割

校時	時刻		月	火	水	木	金
0	16：30 ～17:15	科目 教室					
1	17：30 ～18:15	科目 教室					
給食	18：15 ～18:30						
2	18：30 ～19:15	科目 教室					
3	19：20 ～20:05	科目 教室					
4	20：10 ～20:55	科目 教室			H R		総合的な探究の時間